

2024年度環境経営レポート

(対象期間：2024年1月から12月)
2025年1月31日発行



変化を、進化に。
株式会社 **KMC**

環境経営方針

基本理念

株式会社 KMC は、全社員・お取引先とともに継続して業務・工程改善を行い、さまざまなムダを取り除くことで生産活動による環境負荷を削減し、持続可能な社会づくりの一翼を担う。

行動指針

- 生産活動が、環境に与える影響を的確に把握し、環境経営目標を定め、その具体的活動を定期的に見直すことで、環境経営の継続的改善に努めます。
 - ① 省資源・省エネルギーに配慮した取り組みを推進します。
 - ② 廃棄物の削減と適正管理を推進します。
 - ③ 総排水量の管理を行い、水使用量の把握と適正管理を推進します。
- 生産情報管理システムの継続的改善により、生産効率向上に取り組めます。
- 業務・工程改善を常に追究し、製品品質の向上と環境負荷の削減の両立に取り組めます。
- 不良・クレームの真因追究と再発防止策の設定により、不良・再制作にかかる環境負荷の削減に取り組めます。
- 環境関連の法規・条例を遵守します。
- 本方針を全社員に周知徹底します。

2024年 1月 1日

株式会社 KMC

代表取締役社長 般若 克彦

□組織の概要

1. 名称及び代表者名

株式会社 KMC

代表取締役社長 般若 克彦

2. 所在地

富山県高岡市 IC パーク 11-2

3. 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 般若 克彦 TEL : 0766-30-3277

4. 事業内容

アルミ押出用金型及び自動車部品用鍛造金型の製造

5. 事業の規模

製品出荷額 556百万円（2024年2月期）

主要製品生産量

建材向けアルミ押出用補助工具 : 4,749型

自動車部品向け鍛造用金型 : 6,504型

総重量 : トン

従業員 30名

延べ床面積 2,029㎡

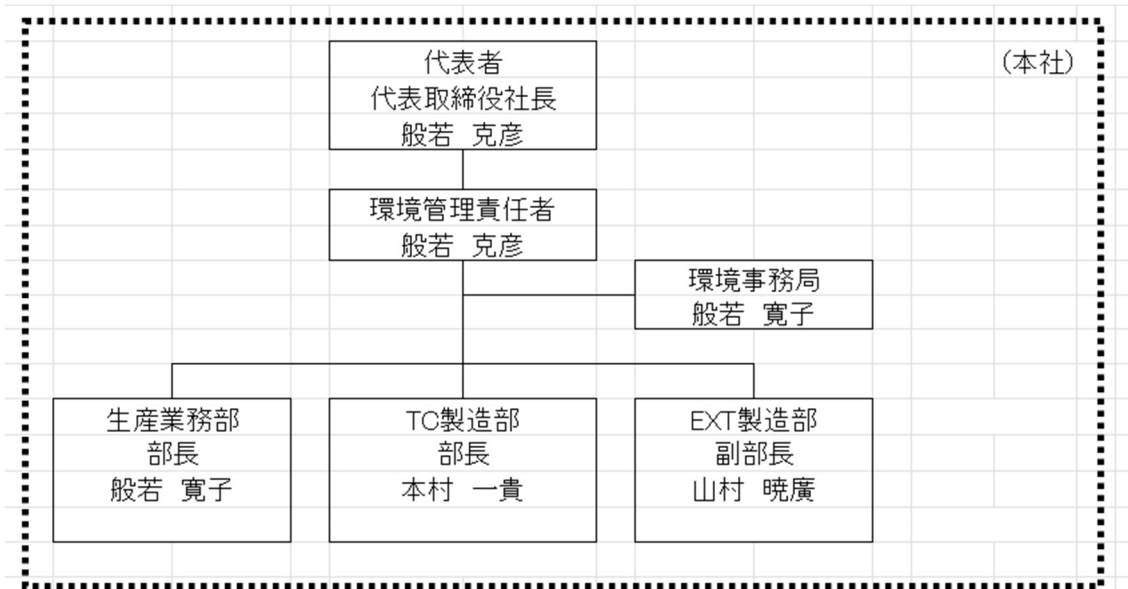
6. 事業年度 3月から2月

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名 株式会社 KMC

関連事業所 本社工場

□実施体制図及び役割・責任・権限表



代表者 (代表取締役)	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境経営目標・環境経営計画を承認 ・代表者による全体の評価と見直しを実施 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ票を承認 ・環境経営目標・環境経営計画を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
環境事務局	・環境管理責任者の補佐、EA21 推進委員会の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画原案の作成 ・環境活動の実績集計

	・環境関連法規等取りまとめ表の作成 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）
部長	・自部門における環境経営システムの実施 ・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 ・特定された項目の手順書作成及び運用管理 ・自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成、テスト、訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

□主な環境負荷の実績

項 目	単位	2022 年 (基準年度)	2023 年	2024 年
二酸化炭素総排出量	kg- CO ₂	365,941	337,629	349,491
廃棄物排出量	kg	11,025	15,019	18,683
一般廃棄物量排出量	kg	438	424	453
産業廃棄物排出量	kg	10,587	14,595	18,230
総排水量	m ³	407	394	392

□環境経営目標及びその実績

年 度 項 目		2022年	2023年		2024年		2025年	2026年	2027年
		(基準年度)	(目標) 基準年度比	(実績)	(目標) 基準年度比	(実績)	(目標) 基準年度比	(目標) 基準年度比	(目標) 基準年度比
電力使用量の削減	kWh	598,152	586,189	547,279	580,207	578,982	574,226	568,244	568,244
	基準年度比 (%)	100%	98%	91%	97%	97%	96%	95%	95%
液化石油ガス使用量の削減 (エアコン)	L	13,245	13,113	13,881	12,980	13,281	12,848	12,715	12,583
	基準年度比 (%)	100%	99%	105%	98%	100%	97%	96%	95%
電力・液化石油ガスによる 二酸化炭素排出量合計	kg-CO2	346,587	340,054	322,397	336,586	336,861	333,121	329,655	329,258
		100%	98%	93%	97%	97%	103%	98%	98%
事務用消耗品費の削減		100	98	74	97	97	96	95	94
	基準年度比 (%)								
産業廃棄物（廃油等）の削減	t	10.58	10.37	14.60	10.26	18.23	10.05	9.95	9.84
	基準年度比	100%	98%	138%	97%	172%	95%	94%	93%
節水	m³	407	403	394	399	392	395	391	387
	基準年度比	100%	99%	97%	98%	96%	97%	96%	95%

＊CO2 排出係数

電気：0.513kg-Co2/kWh

液化石油ガス：3.00kg-Co2/kg

□環境経営活動の取り組み計画と評価

◎よくできた ○ままできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画		達成状況	評価（結果と今後の方向）
電力使用量の削減			
溶断加熱炉の効率的な使用	○	溶断加熱炉は電力使用が大きい。松島顧問指導の下、余熱温度を下げられないか等の実験を始めている。また、昨年に引き続き、物量が多くない時は加熱炉1個で対応している。溶断実験は来期も続ける予定である。 残業時間は基準年度比90％である。新規顧客対応で残業時間対応になることが多い。 マシニングセンタの無人加工は、あまり稼働が良くない。加工経験のあるワークは可能な限り無人稼働する必要がある。	
残業時間の短縮（無人稼働時間の延長）	○		
夜間の工場内換気による工場内温度の上昇防止	◎		
省エネのための使用機器ルール化	○		
灯油使用量の削減			
エコ運転機能があるものは機能利用の徹底	△	夏場は設定温度28℃では工場内が暑く、作業環境を考慮して26℃設定にしている。ただし、食堂や休憩室等で23℃設定等、低すぎる設定も散見された。体感是人それぞれ異なるが、ルールを守るよう周知する。	
不要な使用の抑制	◎		
長時間無人稼働によるオペレーター残業時間の削減	○		
事務用消耗品費の削減			
帳票見直しによる印刷物の削減	○	カラーコピーの使用がまだ多い。モノクロの方が安価のため、モノクロで済むものはカラーコピーを使用しないことを徹底したい。事務用消耗品は予算化して3年以上たっており、購買量は落ち着いてきているが、紙使用量はなかなか削減を図るのが難しい。	
購入品規格化と予算化	◎		
産業廃棄物（廃油等）の削減			
加工不良による廃棄量の削減	△	加工の標準化を進めたが、新入オペレータが増えたことや短納期対応が増えたことにより加工不良が基準年度比20%増加した。引き続き、損失への意識を従業員に持たせ、作業の標準化や加工不良が発生した場合の原因追求、再発防止検討を委員会を組織して実施する。	
節水			
3S活動や日常清掃業務時の水漏れ点検の実施	○	業態上水道水を製造等には使用していない。目標に向けての取組は実施しているため、引き続き節水を心掛ける。	
製品への環境配慮			
VA提案による加工効率化	○	無人稼働を目指す横型マシニングセンタでの加工標準の設定が途上である。新作からでもよいので作成することで、誰でもかけれることや夜間稼働を可能にすることへつなげたい。	
不良発生原因の追究、再発防止策の設定	○		
設備稼働率の向上	△		

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物（廃油、汚泥、廃プラ等）
騒音・振動規制法	空圧機
消防法（危険物）	塗油、機械作動油、廃油
フロン排出抑制法	業務用空調機、エアドライヤ
家電リサイクル法	エアコン、テレビ、冷蔵庫、電子レンジ
自動車リサイクル法	営業用乗用車、トラック

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されてい
ました。なお、違反、訴訟、外部からの苦情等も過去３年間ありませんでした。

□代表者による全体の評価と見直し

項目	評価	見直しの 必要性
環境経営 方針	現時点で見直しの必要はない。経過を見守る。	なし
環境経営 目標及び 環境経営 計画	エネルギー使用量の削減：猛暑の割合が多く、エアコンの使用を抑えるのが難しいが、運用上のルールを守ることによって無駄なエネルギーを使用しないことへつなげる。	なし
	廃棄物排出量の削減：管理業務による紙、トナーの消費はもっと減らせるはず、お取引先とも相談を行うこと。製造ではルールと標準化を進めて不良再発を防ぐことを推進する。	なし
	排水量の削減：新工場移転後は旧工場よりも井戸水の使用が少なくなった。生活用水が主なため、特別な削減策、指示は行わない。水漏れ等の異常がないか監視するために継続的にデータを管理すること。	なし
その他の 環境経営 システム	エコアクションの活動を通して、自分の業務を見直し効率化を進め会社全体の時間加工高の向上につなげること。	なし